ダイコン新品種「YR翔太」の特性と栽培のポイント

雪印種苗㈱　千葉研究農場　　松　井　誠　二

1　はじめに

ダイコンの産地化や産地間競争が進むにつれて，栽培方法と品種特性の改善が求められ，農家の方々はその対応に苦慮されていることと思います。

ダイコンは連作を嫌う野菜ですが，その最も大きな症状として土壌病害の発生があります。その中でも『萎黄病』は特に問題で，産地の崩壊にもつながる深刻な病害です（**写真1,2**参照）。

その対策の一つに，他作物との輪作や土作りがあります。特にダイコンの栽培は畑を疲れさすため，各産地での土作りによる地力維持・回復は重要な課題です。

また一方で，ダイコンには萎黄病抵抗性品種があり，品種選定によっては計画的な良品生産が可能となります。

弊社では，土作りを提唱・実践する傍ら，産地の計画的なダイコン生産に役立つ品種の開発を行なってきましたが，この度，夏秋系で高品質な萎黄病抵抗性品種『**YR翔太**』（試作系統名SB 7013）を発表しましたので，ご紹介致します（**写真3**参照）。

写真1　ダイコン萎黄病の症状（初期生育期）
症状が進むに従い，葉は生気を失い，心葉1～2枚を残して，外葉が黄変して枯れる。菌（フザリウム菌）密度がごく高ければ，発芽後に全面的に枯れる。

写真2　ダイコン萎黄病の症状（肥大期）
被害株は肌が粗くやや黒ずんで，いびつに曲がり商品価値はない。
根を縦に切断してみると導管が黒変し，横に切断してみると導管はリング状に侵されている。発病の最適土壌温度は26～29℃で，冷涼地・高冷地の連作産地で最も問題になっている。

写真３　『ＹＲ翔太』，萎黄病抵抗性で高品質な青首

２　萎黄病抵抗性品種『ＹＲ翔太』の特性

＝青首が鮮明で、高品質な夏秋系ＹＲ品種＝

①萎黄病抵抗性

『涼太』（高品質で播種期幅が広い夏秋系品種）より明らかに萎黄病に強く，抵抗性（ＹＲ）を持っています（**表１**参照）。

高冷地等の萎黄病汚染圃場で安心して栽培でき，涼太の萎黄病対策品種として出荷本数を確保できます。

ただし，極強度汚染圃場ではある程度発病するので圃場選定に留意します。

②草勢

葉はやや濃緑色で，草勢は比較的おとなしく作りやすい。ウイルスには中程度ですが，乾燥や豪雨等で初期生育が停滞する場合は薬散を行います。

③根の生育

57～60日で根長33～35 cm，根茎7.0 cm，根重1.3 kgに揃います。やや短めで，尻つまりが特に良い総太り型です（**表２**参照）。

④青首

涼太に似て鮮明な濃緑色で，肌も照りがあり，市場性が高い。従来のＹＲ品種は首色が淡緑なものが多く，

表１　萎黄病検定（極強度汚染圃場）

品種名	発病率(%)		発病程度*	
	群馬	中研	群馬	中研
ＹＲ翔太	87.3	51.0	34.0	19.0
他社ＹＲ品種Ａ	94.8		32.0	
涼　太	100.0	83.0	74.1	44.0
他社品種Ｂ	100.0		99.8	

注）*：値が低いほど萎黄病に強い。
群馬県冷涼地・平成３年検定
中研（北海道・中央研究農場）・平成５年検定

肌つやの悪いものもありましたが，ＹＲ翔太はその点が改良されており，９～10月出荷の青首ダイコンとして好評です。

⑤抽苔性

夏秋系としては中位です。やや低温期の播種は抽苔の心配がありますので，適期播種を行なって下さい。

⑥す入り

す入りの発生は少ない方でＬ～２Ｌ出荷に向きます。ただし，高温期の早播きでは若干のす入りの他，赤芯・黒芯等の内部変色が散見される場合がありますので播種を避けて下さい。

⑦空洞症・裂根

従来のＹＲ品種は空洞症や裂根がでやすく，肥培管理に気を使うところでしたが，ＹＲ翔太はその心配がほとんどありません。

⑧食味

ややしゃり質で水々しく，良好です。

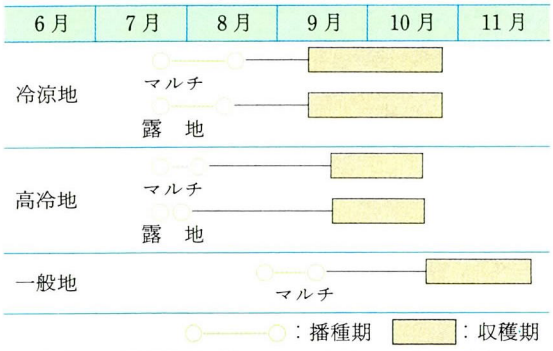
３　『ＹＲ翔太』の適作型と栽培のポイント

１）　適作型は図１を参照下さい。

表２　『ＹＲ翔太』の生育特性

品種名	根長(cm)	根径(cm)	根重(kg)	根形	揃い	青首	肌	すり入	裂根(本)	空洞(本)	抽苔率(%)
〈平成５年８月10日播種　10月６日調査（57日目）　千葉研究農場〉											
ＹＲ翔太	36.0	7,0	1.22	7.0	6.0	5.5	7.0	8.0	0.0	0.5	0.0
他社ＹＲ品種Ａ	37.5	6.9	1.37	7.0	6.0	4.0	7.5	7.5	2.0	2.0	0.0
涼　太	37.9	6.8	1.30	6.5	7.0	6.0	7.5	8.0	0.0	0.0	0.0
〈平成６年７月11日播種　９月２日調査（53日目）　中央研究農場〉											
ＹＲ翔太	35.3	7.4	1.25	6.5	6.0	4.5	7.0	6.5	1.0	―	0.0
涼　太	37.4	7.6	1.26	6.0	7.0	5.0	7.0	6.5	0.0	―	0.0

〈基準〉　根形：９総太り～１尻流れ，揃い：９極良～１極不良
青首：９極濃緑～１白，肌：９極滑～１極粗，す入り：９無～１甚多



＊ 涼太より播種期幅が狭いので，各地での播種適期をつかむのがポイントです。

図1　YR 翔太の適作型

2）　栽培のポイント

冷涼地標準

〈ウイルスと軟腐病の発生に注意する〉

①ウイルス対策として，播種前にオルトラン粒剤を土壌混和しておきます。間引き以降にはアディオン乳剤，パダン水和剤，ＤＤＶＰ乳剤等を散布します。

②多湿圃場では高畝または溝切り栽培とし，多雨時の排水を促し，軟腐病対策とします。

③施肥量は涼太と同様にやや少なめとし，７月中下旬播きではN－P－K＝5－10－10 kg/10 a，8月上中旬播きではN－P－K＝8－10－10 kg/10 a を目安とします。露地では生育を見ながら追肥の体系をとるとよく，追肥時は中耕を行い，根の肥大を順調に進めてやります。

④乾燥しやすい圃場では軟腐病の発生は少ないものの，必ず雨を待って適湿条件になってから，マルチ張りや播種作業を行なって下さい。乾燥条件では逆に障害根の発生が心配されます。

⑤シルバーマルチ栽培は良品の生産に適しています。

⑥むやみな早播きは抽苔，生理障害が，遅播きは短根になりやすいので適期に播種して下さい。

4　ダイコンの土作り（参考として）＝特に緑肥作物の効果について＝

高品質で箱数を上げるダイコンを作るためには，品種の選定だけでなく，土作りが重要です。弊社ではダイコンの栽培体系の中に緑肥作物を組み入れることを勧めていますが，その効果性を紹介します。

①ダイコン横縞症の軽減

横縞症は土壌水分が多く，締まりがちな圃場で発生が多い。ヘイオーツ，ソイルクリーンの栽培・すき込みは土壌の物理性を改善し，秀品率の割合を向上させます。

②ダイコン亀裂褐変症の軽減

特に厳寒期の秋冬ダイコンは土作りの善しあしが亀裂褐変症の発生に関係しているようで，ヘイオーツ，ソイルクリーンの栽培・すき込みは土壌の物理性を改善し，良品の安定生産に貢献しています。

③雑草防除と表土流亡防止

ダイコン跡の圃場管理としてヘイオーツ等で畑を覆い，圃場衛生・地力保全に努め，翌年の作付けに備えます。

④センチュウ防除

ヘイオーツの栽培はキタネグサレセンチュウを低減し，土作りと合わせた防除に最適です。

⑤ダイコン萎黄病の耕種的防除

萎黄病圃場に緑肥をすき込んだからといって，すぐに萎黄病が減るというものではなく，長い目でみた総合的な対応や，むしろ菌密度を今迄以上に増やさないといった考え方が必要になってきます。

ダイコンは温度が下がる時期に遅らせて播種すれば，萎黄病菌がいてもその圃場は発病を回避することが可能となります。また，菌密度を不用意に増殖することもありません。

この作型でダイコンを栽培する圃場に，あらかじめヘイオーツ等のイネ科緑肥をすき込んでおけば，輪作を兼ねた土作りと安定したダイコン生産が無理なく行え，かつ，翌年以降の萎黄病の進行を少しでもくい止めることができるでしょう。

5　む　す　び

萎黄病抵抗性品種『ＹＲ翔太』の紹介をしましたが，萎黄病対策は，今後ますます，品種と土作り輪作など総合的に考えなくてはならない大きな課題であり，できるところから対応を始めることが先決です。